

# 関東大震災、安田講堂、横綱公園？

飛田雄一

南京大虐殺 60 カ年全国連があり神戸・南京をむすぶ会（代表・宮内陽子、事務局長・飛田雄一）もそのメンバーだ。南京大虐殺が 1937 年 12 月なので、60 カ年は 2007 年、各地で南京大虐殺問題に取り組んでいる市民グループが互いに連携するためを作られた。幸存者（中国ではこう表現する）を招待して各地で証言集会を開催したりしている。ただ幸存者も高齢化しており日本訪問が困難になってきている。一昨年から各地の集会の数を減らしている。昨年 12 月は、3 カ所（大阪、東京、名古屋）のみの開催となり、神戸では、

12/12（金）に都留文科大学名誉教授・笠原十九司さんをお招きして「海軍の日中戦争—アジア太平洋戦争への自滅のシナリオー」をテーマに講演していただいた。笠原さんは同題の本を昨年 6 月に平凡社から出版されている。



南京大虐殺はもうすぐ 70 カ年となるが全国連の名前は「60 カ年」のまましている。年に 2 回、福岡、岡山、神戸、大阪、金沢、名古屋、東京で会議を開いている。今年は去る 1/16~17、東京で開かれた。担当は「ノーモア南京の会」（代表・田中宏）だった。

初日は、各地の活動報告、訪中の取り組み、12 月集会の持ち方等が話しあわれた。神戸・南京をむすぶ会は、今夏訪中を決定しているが、ちょうどそれが 20 回目となる。南京ともう 1 カ所を 8 月中旬に約 1 週間の予定で訪中する。20 回は節目で、初回から 19 か今で南京の現地ガイドをしてくださって・戴國偉さんを招きたいと考えている。21 回目はないかも？

今回の東京会議、2 日目はフィールドワークだ。会議後にフィールドワークをするのも恒例になっている。以前むくげ通信 259 号（2013/7）に書いた「亀戸に関東大震災虐殺事件の現場を訪ねる」もこのフィールドワークだ。会議をしたのは東陽町、フィールドワークは両国駅からスタートした。関東大震災時に被害の大きかったところだ。



まず、旧安田庭園（左、スカイツリーが見える）だ。

「もと常陸国笠間藩主本庄因幡守宗資により元禄

『むくげ通信』274 号（2016.1.31）

年間（1688~1703）に築造されたと伝えられる。かつては隅田川の水を引いた汐入回遊式庭園として整備される。明治維新後は、旧備前岡山藩主池田侯の邸となり、次いで安田善次郎氏の所有となりました。氏の没後大正 11 年（1922）東京市に寄附されました。関東大震災後、太平洋戦争を経て東京都から墨田区に移管され、全面的改修を行い、復元、開園しています」とある（<http://visit-sumida.jp> より）。東大の安田講堂の安田もある。ちなみに？、東大入試のなかった 1969 年大学入試の私の学年は、入学後のコンパで「東大に行くつもりだったが、お金がなく浪人できないのでこの大学にきました」というのが決まり文句？だった。

次に訪ねたのが旧安田庭園の隣にある「横綱公園」。震災と戦災のメモリアルパークのことだ。震災は関東大震災、戦災は東京大空襲だ。相撲の両国の近くなので「横綱（つな）」公園と思っていたら違った。「横綱（あみ）」だった。



「この公園は「横綱公園」という名のほか「被服廠跡」「東京都慰霊堂」「東京都復興記念館」とも呼ばれています。そのいずれもが、この公園の歴史を物語っています。／大正 11 年（1922 年）、東京市は陸軍被服廠の移転に伴い、跡地を買収し公園の造成を進めていました。その最中に発生したのが、翌 12 年 9 月 1 日の関東大震災、その時この周辺の人々が被服廠跡に避難しましたが、運び込まれた家財道具に飛火し、折からの風速 17 メートルの強風に燃え広がり、多数の焼死者が出ました。／遭難者の靈を供養し、さらに東京を復興させた大事業を記念するため、公園内に慰霊堂と復興記念館を建てました。その後、東京大空襲の犠牲者である一般戦災者の靈も安置することになりました。」（パンフレットより）という。

地図にある慰霊堂は、「関東大震災による遭難死者約 58,000 人の遺骨を納めるために、昭和 5 年

(1930)に建てられたものです。東京大空襲(昭和20年(1945)3月10日)などによる殉難者の遺骨もあわせて、現在約163,000体の遺骨が安置されています」(同)で、この場所が関東大震災と東京大空襲で大きな被害を受けたことを表している。

そしてこの公園のほぼ中央に「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼碑」がある。



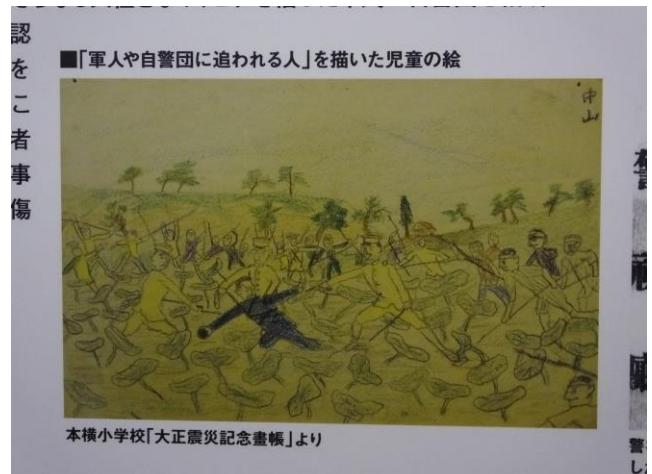
「追悼 朝鮮人犠牲者追悼碑」の左にある碑文は以下のとおりだ。

「一九二三年九月発生した関東大震災の混乱のなかで、あやまつた策動と流言飛語のため六千余名にのぼる朝鮮人が尊い生命を奪われました。／私たちは、震災五十周年を迎える朝鮮人犠牲者を心から追悼します。／この事件の真実を識ることは不幸な歴史をくりかえさず、民族差別を無くし、人権を尊重し、善隣友好と平和の大道を拓く礎となると信じます。／思想、信条の相違を越えて、この碑の建設に寄せられた日本人の誠意と献身が、日本と朝鮮両民族の永遠の親善の力となることを期待します。一九七三年九月 関東大震災朝鮮人犠牲者追悼行事実行委員会」

追悼碑の前の石には「この歴史 永遠に忘れず 在日朝鮮人と固く 手を握り 日朝親善 アジア平和を打ち立てん」と刻まれている。



「震災記念館」は関東大震災の記念館で充実している。不充分ではあるが、朝鮮人虐殺についても説明されている。当時自警団に追われている朝鮮人を描いた子どもの絵も展示されていた。



先の地図の「樓鐘」のところにあるのは、関東大震災時に中国人・王一亭さんが送った鐘だ。関東大震災(9/1)後、早くも9/7に義捐金18万5千元とともに多数の救援物資を日本に送り、その後、梵鐘(幽冥鐘)が送られた。当時、朝鮮人とともに中国人も犠牲になっているが、その事実を後に中国人が知り(抗議し?)一時この鐘が撤去されたこともあるという。(右、鐘の刻印の一部)

横網町公園の次にタクシーに分乗して「東京大空襲・戦災資料センター」を訪問した。早乙女勝元さんらが建てた民間のセンターだ。私は神戸空襲を記録する会にも加わっており、一昨年御影公会堂で開催した空襲全国研究集会の事務局も担当した。もちろんその集会にも東京のメンバーもこられ、交流があった。訪問したいところだった。(下、東京都江東区北砂1丁目5-4 TEL: 03-5857-5631)



私たちのグループは、見学だけの予定だったが、同じ時間帯に労働組合グループの訪問があり、彼/彼女のための証言集会が開かれるというので参加させていただいた。92歳になられたという清岡美知子さんの証言は衝撃的だった。すこし交通の便が悪いがぜひ訪問してほしいセンターだ。充実の2日間だった。